

## TTC DSL 専門委員会スペクトル管理サブワーキンググループ

---

日付：2004年3月4日

提出元：イー・アクセス株式会社<sup>1</sup>

題名：TTC スペクトル管理 SWG での検討の在り方について

---

昨年12月より、スペクトル管理 SWG においては、上り拡張方式の扱いをめくり膠着状態が続いていたところ(事業者間会合では JJ100.01 第3版の改訂までフィールド導入の結論を延期するとなった)であるが、本寄書では今回の経緯について当社の考え方を述べるものである。

#### 1 現行ルール (JJ100.01 第2版) の適用の効力について

今回の上り拡張方式については、JJ100.01 第2版でのスペクトル適合性の計算は終了しているにも関わらず、一部の SWG メンバからの意見によりフィールド導入については継続検討となっている。

この際、JJ100.01 第2版の適用可否についての考え方が明確に示されておらず、今後の SWG 運営で以下の点が問題になると考えられる。

スペクトル適合性の結果をもってフィールド導入が出来ない前例となる

新しい伝送システムの提案に対して、メンバ合意による現行ルール (JJ100.01 第2版) が存在するにもかかわらず、SWG メンバの誰かが異議を申し出れば、その伝送システムのフィールド導入を延期等させることが出来ることになり、DSL サービス及び機器市場の競争上の問題となる。

予見性の喪失

機器メーカー及びサービスプロバイダが公平に新伝送システムの開発、もしくはサービス導入計画を進めることを担保すべく定められた現行ルール (JJ100.01 第2版) であるが、現行ルールの適用が新伝送システムの提案の都度揺らく可能性があるのであれば、予見性が全く損なわれ、開発・投資を含む企業活動に対し甚大な影響を与える。

#### 2 スペクトル管理 SWG での検討範囲

前項の問題点を整理するにあたっては、総務省の答申に従って既存システム(クラス A・クラス A'に分類されている伝送システム)を保護するという、スペクトル管理の目的に立ち返って、あらためてスペクトル管理 SWG の検討範囲について認識を揃える必要がある。

具体的には、

- ・ 従来とおり技術的な事項

---

<sup>1</sup> イー・アクセス株式会社

小畑 至弘 obata@eaccess.net 藤田 敬史 keishi@eaccess.net 大橋 功 iohashi@eaccess.net

・ 上記に加えて、ADSL サービスの方向性/在り方  
などを検討項目とすることが、考えられるが、当社としては前者を支持し技術的な事  
項以外の問題が発生した場合には、別の枠組みをもって解決することを提案したい。

以上